

全体総括

○計画期間：平成 26 年 4 月～平成 31 年 3 月（5 年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

基本計画においては、基本理念を「都市経営-再生へのマネジメント」とし、4つの基本的な方針と3つの活性化の目標「人々の交流によるにぎわいの回復」「地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造」「環境に配慮し安心安全な暮らしの実現」を定め、各事業に取り組んだ。

飯田市民の心のシンボルであるりんご並木周辺では、1期計画において整備を行ったテナントミックス事業の稼働が開始され、新たなまちの賑わいが創出された。特に、毎月 1 回開催している りんご並木の歩行者天国イベントは全 35 団体に及ぶ多様な主体の総意工夫により年々来街者が増加し、まちの賑わいづくりに寄与している。このフィールドから新たな街づくりの担い手も生まれてきている。

扇町公園内にある飯田市立動物園では、再整備の効果が表れ、平成 27 年度には過去最大の入園者数を記録した。これらの事業展開によって、各事業の実施拠点では人々が訪れる機会が増加し、中心市街地全体に賑わいが見られるようになった。

まちなか健康福祉拠点活用事業においては、民間事業者が福祉関連サービスへの段階的な取り組みを行い、高齢者支援に加え、市民それぞれのライフスタイルに合わせた健康増進策を実施していることにより、大幅な利用者の拡大に繋がっている。

環境に配慮したまちづくり事業の取り組みにおいては、民間の医療法人が歴史的町並みの跡地を活用し、38 戸のサービス付高齢者住宅の集合住宅整備を行うことができた。この施設に設置されている太陽光発電システムは、売電収入を地域に還元する仕組みづくりもできた。

また、飯田駅ほか中心市街地の賑わい拠点を結び回遊性を促すため、電気小型バスを運行した。このような事業の取り組みは、中心市街地が飯田市における環境面での先導的な役割を果たすことにもなっている。

一方で、駅前大型商業施設が閉店するなど、中心市街地の商業活力は減少している。また、高齢化率も飯田市全体としてもかなり高い数値となっており、継続的な課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度 1 月 1 日）

（中心市街地 区域）	平成 25 年度 （計画前年度）	平成 26 年度 （1 年目）	平成 27 年度 （2 年目）	平成 28 年度 （3 年目）	平成 29 年度 （4 年目）	平成 30 年度 （最終年度）
人口	9,404	9,288	9,169	9,010	8,853	8,660
人口増減数	-205	-115	-150	-124	-115	-186
自然増減数	-122	-111	-140	-98	-118	-101
社会増減数	-83	-4	-10	-26	3	-85
転入者数	266	283	274	273	287	251

※人口増減数については居住実態調査による職権消除を含まない。

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

基本計画に位置付けた全 61 事業のうち 56 事業について着手済み。残る 5 事業については未着手である。

設定する目標に達することができなかった指標もあるが、「1.計画期間終了後の市街地の状況(概況)」のとおり、中心市街地のシンボルであるりんご並木をステージに多様な主体による創意工夫あふれるイベントを継続実施したことにより、中心市街地に人々が訪れる機会が増加した。

これは、目標指数である土曜日における「歩行者・自転車の通行量」が8,568人/年と、目標値の8,600人/年には若干ではあるが届かなかったものの、ある程度の賑わいがまちの中に創出されたことは、一定の成果があったものとする。

また、前期計画事業で実施した飯田市立動物園の改修整備を活かす「扇町公園(動物園)活用事業」の効果により、平成27年度の動物園入園者数は過去最高の145,000人/年を記録することができた。これは基準値である平成24年度と比較すると176%もの増加を生み出すものとなった。しかし、平日における歩行者・自転車の通行量は9,716人/年と、目標値である10,300人/年には届かず、恒常的なまちの賑わいまで至っていない。

中心市街地関係地域においては、人口・世帯数の減少と少子高齢化が止まらず、活性化のために必要な対策として、多世代の多様なまちなか居住推進が求められていた。そうした中、今期実現した民間の医療法人におけるサービス付き高齢者住宅による集合住宅(38戸)の整備は、付帯する健康福祉関連サービスも新たに生み出すことができ、高齢化率の高い地域の問題を解決するとともに、歴史的建造物のストック活用や、施設に併設された太陽光発電システムによる売電収入の地域還元など、景観・環境に配慮したまちづくりが実現できるものとなった。

また、民間事業者が実施する「まちなか健康福祉拠点活用事業」においては、利用者数の増加を牽引し、計画最終年度の都市福利施設の利用者数は150,796人/年と、目標値である平成24年度の123,000人/年を大幅に上回るすることができた。

これら事業の取り組みは、歩いて暮らせるまちの目標のひとつである「環境に配慮した安心安全な暮らしの実現」を、民間事業者の事業努力が成果として表れるものとなった。

こうした状況を勘案し、中心市街地においては若干の活性化が図れたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

第2期飯田市中心市街地活性化基本計画事業の取り組み等に対する 中心市街地活性化協会の意見

- リニア中央新幹線の長野県駅が郊外に設置される当地域では、リニア駅周辺は広域交通拠点としての限定的な機能を整備することとしており、中心市街地は引き続き当地域の中心拠点であり続けることが確認されている。
- そうした中、第2期飯田市中心市街地活性化基本計画は、来るべきリニア時代に向けて中心市街地の魅力を高め、ひいては飯田市及び南信州圏域全体のポテンシャルを高めるためにも重要な計画として様々な事業に取り組むことを推進してきた。

- 第2期計画は様々な事業に着手し、目標値も達成する項目もあるなど順調に進行したものと捉えている。
- 特に、飯田市民の心のシンボルでもある「りんご並木」については、ソフト・ハードとも充実した取り組みを行っており、隣接する「扇町公園(動物園)活用」事業との相乗効果により中心市街地に訪れる人々が増加したことは一定の成果の表れである。
- また、当市の特徴として、まちの賑わいを創る、支える「人づくりの場」がこの中心市街地をステージに生まれていることも大きな成果であった。
- ただし、歩行者天国などのイベントは大きな集客はあるものの、日常における中心市街地への来訪者や歩行者は目標指数から比較しても達していない。
- 今後においても、中心市街地に凝縮されている豊かな文化や既存ストックをこれまで以上にしっかりと守り、継承し、活用し、新たな交流や回遊を促すソフト事業の展開やそれらが生きる施設整備等の検討が必要である。

- 新しいまちの動きとして、中心市街地関係地区（橋北、橋南、東野）において、地域のまちづくり基本構想の策定や取り組みが開始された。これを踏まえ、次期中活計画の策定においては、多くの主体が参加する「飯田丘のまち会議」において議論を深め、多様な主体の参加による まちの活性化に向けた積極的な推進事業の検討を進められたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

中心市街地活性化基本計画を策定する上で、市民の中心市街地についての利用実態及びニーズを把握し、今後の活性化・まちづくりのあり方について聞くことによって、市民からみた中心市街地のとるべき方策の方向性を検討する基礎資料とするため、アンケートを実施した。また、実施前後のアンケート結果との比較をすることで、市民意識の変化について分析した。

1 調査方法

- ① 調査対象
市域全域の20歳以上を対象とし、住民基本台帳登録者により2,000人を無作為抽出
- ② 調査方法
郵送により配布・回収
- ③ 調査期間
平成31年1月15日～28日（回収締切日）

2 調査項目

- ① 中心市街地の活性化について

3 回収率等

- ① 回収状況
2,000人のうち765人が回答
- ② 回収率
38.3%

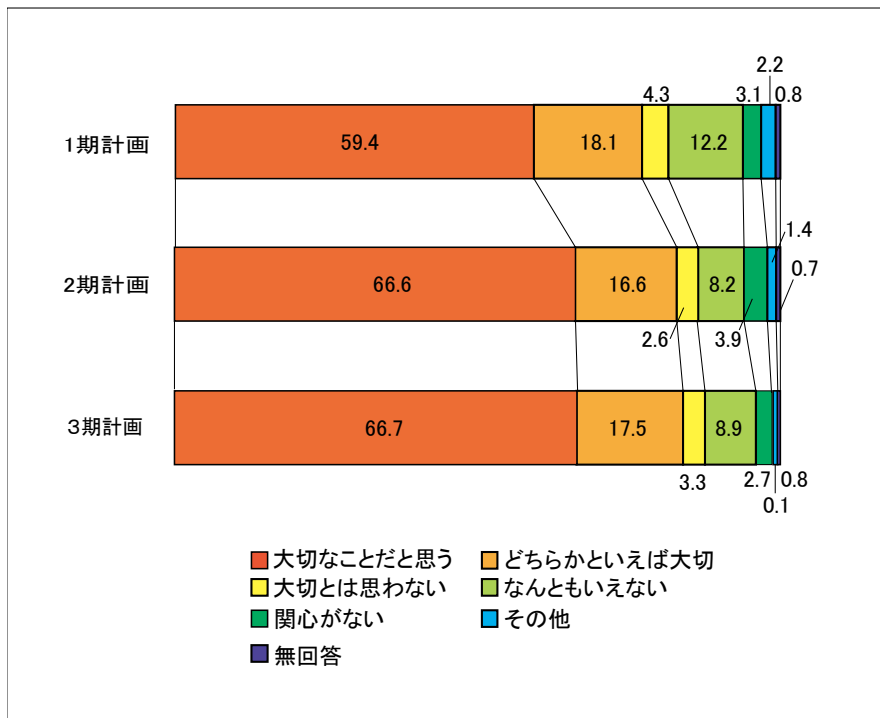
4 調査結果

アンケート調査の結果から、ここ5年余りの間に中心市街地を大切に思う市民の比率が高まり、中心市街地に求めるものに変化がみられることが明らかになった。

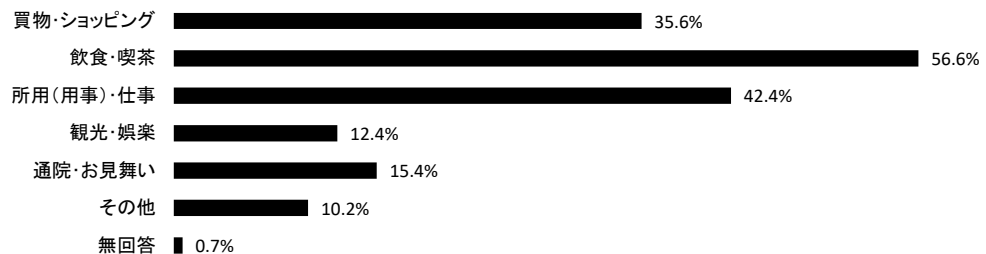
1.中心市街地の活性化について

「大切なことだと思う」が66.7%、次いで「どちらかと言えば大切」が17.5%となっており、中心市街地の活性化を大切だと感じている人が8割を超えている。また、計画実施前に比べて中心市街地の活性化を大切だと感じている人が1.0ポイント増加している。「大切だと思わない」については3.3%と僅かであった。

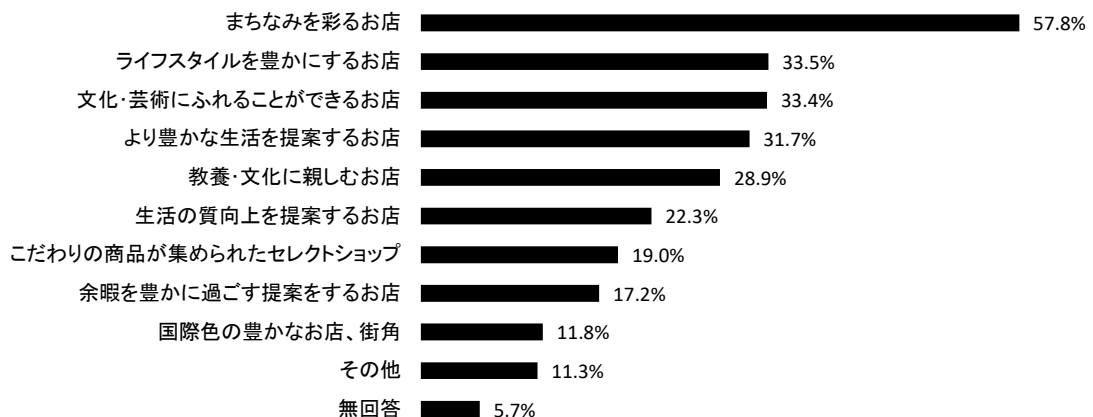
計画における中心市街地活性化への市民の評価と捉えることができる。



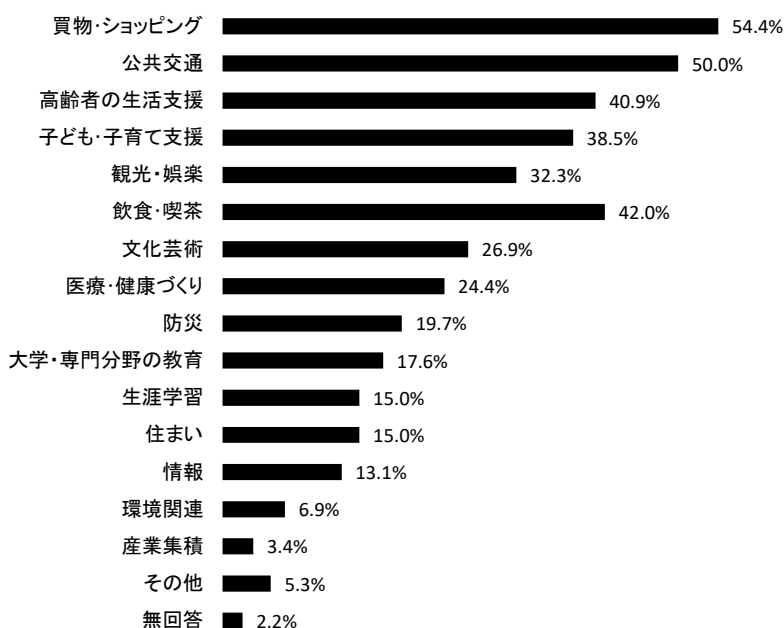
①「中心市街地に行く目的」を質問したところ、「飲食・喫茶」が 56.6%、「所用(用事)・仕事」が 42.4%、「買物・ショッピング」が 35.6%を占めていた。その中でも、りんご並木周辺を中心としてテナントミックス事業等により飲食店が出店したこともあり、「飲食・喫茶」が 4.4 ポイント増加している。一方、「買物・ショッピング」は 12.6%減少であった。



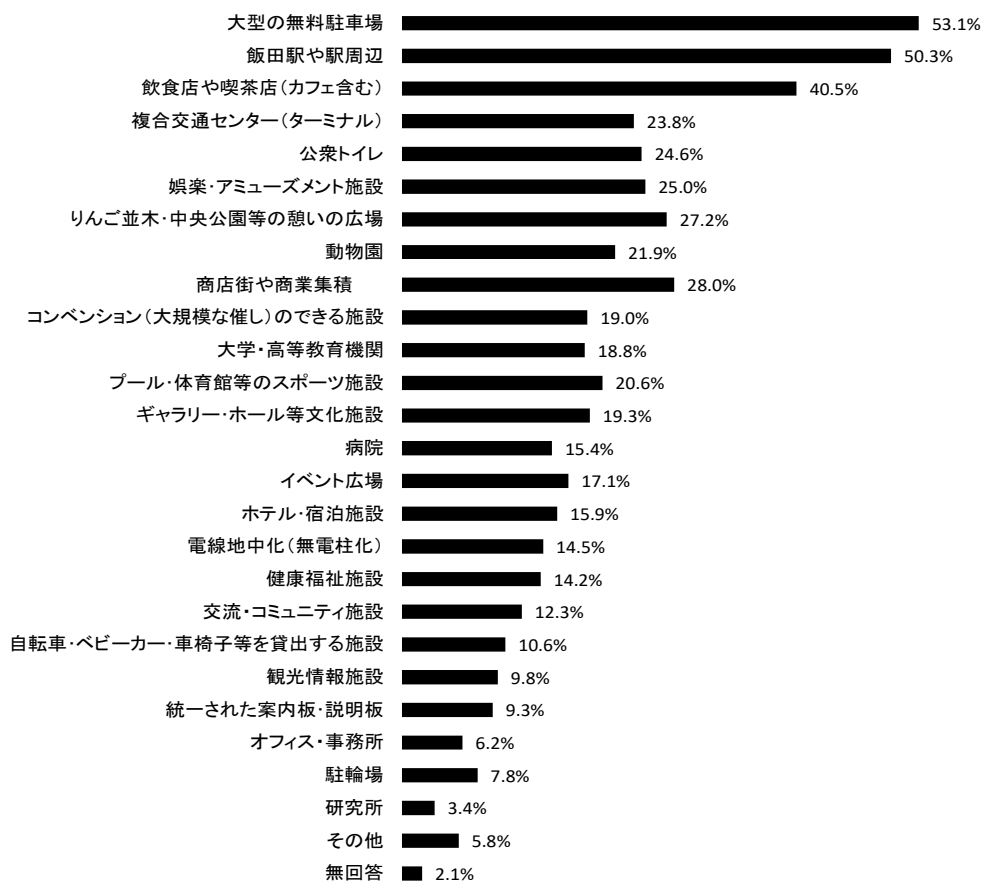
②「郊外のロードサイド型の店舗とは違う、中心市街地の楽しさや便利さを高めるために必要な店」については「カフェ、ダイニング、レストラン、手づくりケーキ店、ベーカリーなどでまちなみを彩るお店」が 57.8%と圧倒的に多く、前回調査と比較しても 6.4%も増加している。



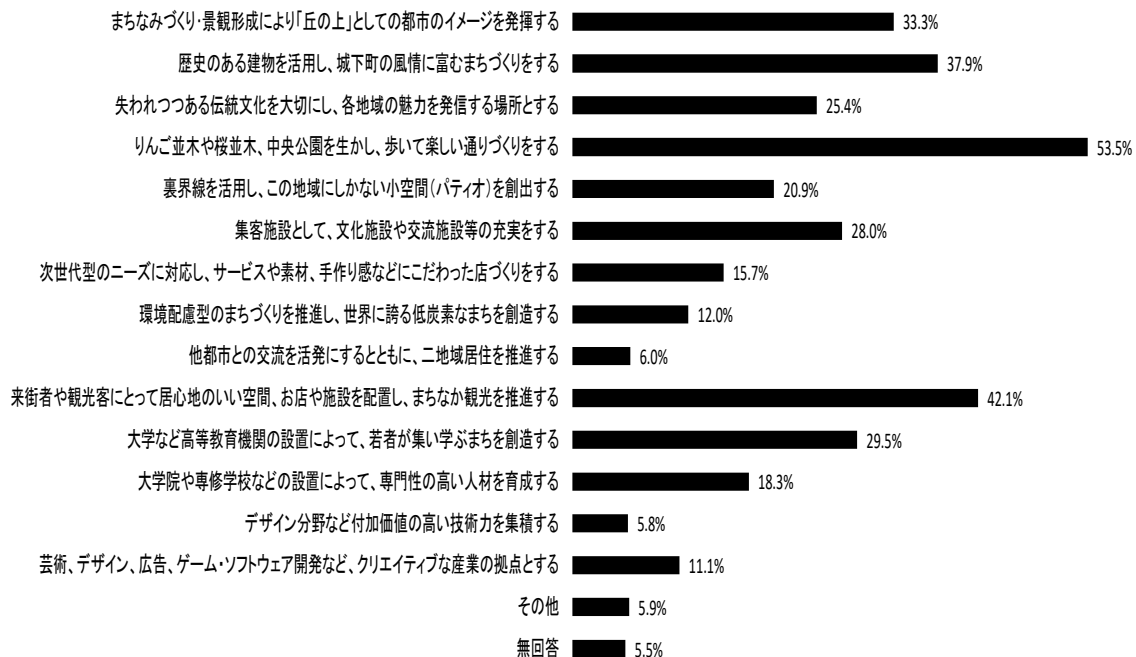
また、「中心市街地に今後充実させるべき機能」については「飲食・喫茶」が 42.0%であり、こちらでも前回調査と比較して 8.2%増加している。中心市街地の機能として飲食店のニーズが多くあり、そのためテナントミックス事業等により中心市街地に飲食店が増加したことが、市民の中心市街地の活性化の評価につながっていると考えられる。今後も継続的に事業を進めていく必要がある。



③「中心市街地で今後充実されるべき施設」では、「大型の無料駐車場」や「動物園」が前回調査に比べて減少している。これらは 2 期計画の事業によって、駐車場や動物園が整備されたことによる成果だと考えられる。



④「中心市街地の活性化で、重点的に実施すべき計画」として、「りんご並木や桜並木、中央公園を生かし、歩いて楽しい通りづくりをする」が最も多く 53.5%を占めている(前回調査では「りんご並木を生かし、楽しい通りづくり」が 42.4%で最多)。りんご並木周辺の活性化を多くの市民が望んでおり、これまでにりんご並木周辺でハード・ソフト事業を実施してきたことが、市民の中心市街地活性化の評価につながっていると思われる。今後も引き続きりんご並木を中心にさらなる活性化を図りつつ、その効果を周辺に波及されていく必要がある。



商店街店舗をはじめとした買い物・ショッピングの充実、飯田駅や駅周辺の整備、公共交通の充実など課題は残されているが、りんご並木周辺によるハード・ソフト事業、テナントミックス事業等による飲食店の増加、駐車場や動物園周辺の整備により、中心市街地の活性化に対する市民の評価をある程度得ていると考えられることから、『若干の活性化が図られた』としている。

6. 今後の取組

本市においては、国の「中心市街地活性化法」以前から、独自のまちなか再生への取り組みが行われ、全国的にもモデル都市として注目されてきた面がある。その後さらに発展させるために、第1期・第2期中心市街地活性化基本計画に取り組み、飯田市における中心市街地の活性化の成果は、外見に見えるハード事業の成果と共に、それを生み、支えてきたソフト面の仕組みの両面から進化がみられるところである。そのことが、飯田らしいまちづくりであり、そのソフト・ハードの一体性を如何に発展されるかが、次のステップの重要な課題となる。

①公共空間について

主に既存の公共空間において、点と線の実現、拡大による事業展開が功を奏した反面、新しい都市空間のインフラとも言うべき道路環境や、豊かにまた線・面としてある公園・緑地など、さらにはそれらをつなぐべき公共空間の誘客ともなる高質化という面では課題が残されている。

JR 飯田駅周辺から動物園、りんご並木など回遊性を創出する道路景観、中央公園と接する道路といった受け入れ体制づくりといった公共空間のあり方について、リニア新幹線をも視野に入れた長期的で段階的な取り組みが必要である。

②商業について

商業活性化については、継続的に展開されてきた再開発等や、りんご並木沿いなど、戦略的なプロジェクト展開が一定の成果を見せている一方で、中心市街地全体としての商業集積力の相対的な向上にはまだ途上段階にあり、既存商店街のあり方についても課題を残している。商業活性化に次の一手が求められている段階を迎えていると考えられる。

既存の商店街のすべてのリニューアル、パワーアップを同時にすることは現実的とは考えられないが、まちなかに新たな活性化拠点を点在させるとともに、地域と個店、商店街が連携したソフト事業の展開により、まちなか全域としての求心力を高めていく。

③まちなか居住について

地道ながら、身の丈に合った再開発等を通じて都市居住プロジェクトを積み重ねてきたが、それを継続的な流れにするには到っていない。

再開発の中に公的な手法で住宅を組み込むのは、今後一般化しにくいことから、既存建物のコンバージョンやシェアハウス、まちなみ調和型戸建住宅群など、市民参加や民間事業者の連携による、まちなか居住の多様な展開を推進していく。また、今期実現したサービス付高齢者住宅が効果を上げていることから、多世代の生活をサポート(子育て・健康・福祉)する場の提供や、楽しみや学びの場の環境づくりを強化していく。

2期計画においては、民間におけるソフト事業が活発に実施されていることから、実績値の維持が期待される。今後も効果を継続していくことが重要である事から、目標達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCA サイクルを継続していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
人々の交流によるにぎわいの回復	歩行者・自転車通行量(土曜日)	7,500 人/日 (H24)	8,600 人/日 (H30)	8,568 人/日 (H30)	H30.10	B
	歩行者・自転車通行量(平日)	9,300 人/日 (H24)	10,300 人/日 (H30)	9,716 人/日 (H30)	H30.10	B
地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造	文化・交流施設の利用者数(年間)	264,000 人/年 (H24)	290,000 人/年 (H30)	277,548 人/年 (H30)	H31.3	B
環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現	中心市街地における都市福利施設の利用者数(年間)	112,000 人/年 (H24)	123,000 人/年 (H30)	150,796 人/年 (H30)	H31.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

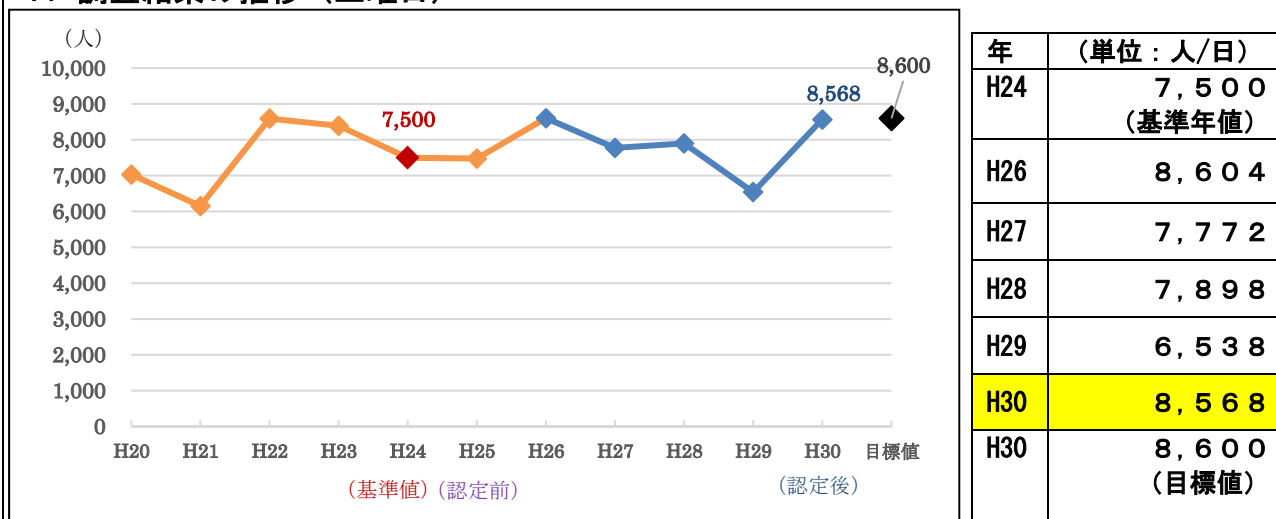
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者・自転車通行量（土曜日）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 98～P. 101 参照

1. 調査結果の推移（土曜日）



※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日4地点
(駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目)

○各地点における歩行者通行量（1日当り：12時間・自転車含む） 単位：人

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
駅前中央通り	3,278	3,284	3,612	3,744	3,466	4,028	3,316
りんご並木	1,210	1,194	1,486	1,202	1,638	970	1,774
知久町1丁目	554	484	526	318	476	304	744
銀座3丁目	2,478	2,514	2,980	2,508	2,318	1,236	2,734
合計	7,520	7,476	8,604	7,772	7,898	6,538	8,568

2. 目標の達成状況【 B 】

歩行者・自転車通行量（土曜日）の増加に向けた各事業においては、一部事業が未達成となった。

現行計画では、基準値 7,500 人/日（平成 24 年度）に対し、目標値を 8,600 人/日と設定した。平成 30 年度通行量調査（平成 30 年 10 月実施）の結果により、最新値は 8,568 人/日となり、僅かであるが目標値には至らなかったことから達成状況を B とした。（平成 26 年度では 8,604 人/日となっており、目標値を達成している。）

地点ごとに通行量を見てみると、4 地点全てで平成 30 年度の数値が基準値の平成 24 年度を上回っている。しかし「駅周辺及び駅前ストリートの整備事業」が未着手であったこと、また駅前にあった大型商業施設が平成 30 年 9 月に閉店したこともあり、飯田駅前（中央通りを含む）の通行量が伸びなかった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 駅周辺及び駅前ストリークの整備事業（事業主体名：飯田市、飯田観光協会、JR 東海）

事業実施期間	未実施【未】 【認定基本計画：平成 20 年度～平成 30 年度】
事業概要	交通の結節点である飯田駅のまちなか誘客拠点としての機能、駅周辺及び駅前ストリークの観光情報案内所、店舗等誘客施設、駐車場、駐輪場、トイレ等を総合的に整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	未実施 【認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（平成 29 年度～平成 30 年度）】
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）歩行者通行量：173 人増（対 平成 24 年比） ※駅前中央通り （達成状況）目標未達成
達成した（出来なかった）理由	リニア長野県駅設置に併せ、リニア将来ビジョンにおける関連整備と連携して検討するため事業着手には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	-
事業の今後について	バスや JR の利用拡大に努めるとともに、リニア中央新幹線長野県駅設置を見据え、リニア到来の大交流時代に対応した総合的な交通戦略に基づく事業展開を行う。

②. りんご並木周辺商業施設等整備事業（事業主体名：㈱飯田まちづくりカンパニー）

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 20 年度～平成 30 年度】
事業概要	りんご並木ストリートマネジメント計画に基づき、りんご並木周辺の空き店舗等を中心市街地に投資意欲を持つ民間事業者とマッチングさせることで有効活用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再興戦略事業費補助金（経済産業省）（平成 27 年度） 地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成 28 年度～平成 30 年度）
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）歩行者通行量：832 人増（対 平成 24 年比） （最新値）歩行者通行量：754 人増（対 平成 24 年比） ※りんご並木 知久町 1 丁目 （達成状況）目標未達成
達成した（出来なかった）理由	まちづくり会社のテナントミックス事業効果により、4 店舗が稼働し、りんご並木周辺の空き店舗数が減少には繋がった。店舗周辺における歩行者数は増加傾向であるが、目標値までには至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	りんご並木周辺の空き店舗、未利用地の解消に繋がった。また、各テナントの開店により、りんご並木周辺の歩行者数は増加している。

事業の今後について	今後は、当市の街並み特有である裏界線沿いの空き店舗等の解消に向けた施設整備に取り組む。
-----------	---

- ③. まちなか回遊を創出する事業（事業主体名：飯田市、NPO いいだ応援ネットアイデア、NPO 飯田人形劇センター）
 飯田駅前にある「観光案内所」、りんご並木周辺にある「まちなかインフォメーションセンター」の2つの観光案内所を活用し、そこから見込まれる利用者に対して、下の5の事業によって回遊性の創出を図る。

(1) りんご並木賑わいづくり事業（事業主体名：飯田市）

事業実施期間	平成21年度～【実施中】 【認定基本計画：平成21年度～平成30年度】
事業概要	りんご並木周辺における文化的イベントや農産物直売市等の商業的イベントを実施するとともに、魅力資源発掘、マップ作成や情報発信等を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (総務省)(平成26年度～平成30年度)
目標値・最新値及び達成状況	(目標値)歩行者通行量：181人増(対平成24年比) (最新値)歩行者通行量：136人増(対平成24年比) ※駅前中央通り りんご並木 知久町1丁目 銀座3丁目 (達成状況)目標未達成
達成した(出来なかった)理由	多様な主体で開催される歩行者天国イベントの効果により、りんご並木周辺の歩行者数は増加したが、駅周辺及び駅前ストリートの整備事業の未実施により目標達成に至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	月毎に開催する歩行者天国イベントの効果により、りんご並木周辺に賑わいが生まれているが、恒常的なまちの賑わいまでは至っていない。
事業の今後について	今後も、多様な主体による連携の強化とより魅力のある事業の検討を行い実施していく。

(2) 人形劇のまちづくり推進事業（事業主体名：NPO いいだ応援ネットアイデア・NPO 飯田人形劇センター、飯田市）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】 【認定基本計画：平成20年度～平成30年度】
事業概要	人形劇をテーマとした操れる人形等の商品開発、観光ツアー開発、イベントの実施等官民一体のまちづくりの推進
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	(目標値)歩行者通行量：181人増(対平成24年比) (最新値)歩行者通行量：136人増(対平成24年比) ※駅前中央通り りんご並木 知久町1丁目 銀座3丁目 (達成状況)目標未達成
達成した(出来なかった)理由	人形劇をテーマとしたサブカルイベントの祭典「飯田丘のまちフェスティバル」の継続と深化により来街者の増加を促しているが、恒常的な街の賑わいまでは至っていない。
計画終了後の状況	「飯田丘のまちフェスティバル」の効果により、中心市街地

(事業効果)	を訪れる(聖地巡礼)者は増加している。
事業の今後について	今後は、次世代デジタル技術とまちなか既存ストックを融合させたソフト事業の創出を検討する。

(3) 観光資源開発とネットワーク化事業 (事業主体名: 飯田市)

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 20 年度～平成 30 年度】
事業概要	まちなかに点在する施設や資産を観光資源として開発・整備するとともに、一体的なネットワーク化によるまちなか観光の促進を行う。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	(目標値) 歩行者通行量：181 人増 (対 平成 24 年比) (最新値) 歩行者通行量：136 人増 (対 平成 24 年比) ※駅前中央通り りんご並木 知久町 1 丁目 銀座 3 丁目 (達成状況) 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	シードルを核とした新たな観光資源のブランドづくりに取り組んだ。また、それを活用したイベント(長野シードルコレクション)の実施を中心市街地で開催したが、恒常的な街の賑わいまでは至っていない。
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地におけるイベント等においてシードルを活用した様々な取り組みが行われている。
事業の今後について	今後は、産学連携によるシードルを活かしたブランド化の推進とネットワーク化の構築について検討を進める。

(4) まちなか観光活性化事業 (事業主体名: 飯田市)

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 20 年度～平成 30 年度】
事業概要	観光案内拠点、商業者、宿泊施設等が連携し、観光資源を活かしたまちなか観光の推進
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	(目標値) 歩行者通行量：181 人増 (対 平成 24 年比) (最新値) 歩行者通行量：136 人増 (対 平成 24 年比) ※駅前中央通り りんご並木 知久町 1 丁目 銀座 3 丁目 (達成状況) 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	中心市街地の飲食店が連携するバル事業の取組により、新たな連携による中心市街地の活性化が図られたが、恒常的なまちの賑わいまでは至っていない。
計画終了後の状況(事業効果)	バル事業の継続により、飲食店のネットワーク化ができている。また、バル事業を通じた地元食材による地産地消の推進に取り組んでいる。
事業の今後について	今後は、このネットワークを軸に、更なる地産地消の取組や、まちなか MICE の推進に向けた回遊性の取組を検討する。

(5) まちなか情報発信事業（事業主体名：飯田市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 26 年度～平成 30 年度】
事業概要	観光スポット、イベント情報発信とまち歩きマップ作成
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）歩行者通行量：181 人増（対 平成 24 年比） （最新値）歩行者通行量：136 人増（対 平成 24 年比） ※駅前中央通り りんご並木 知久町 1 丁目 銀座 3 丁目 （達成状況）目標未達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地のイベントや情報発信の強化により、5 つのホームページを開設しリアルタイムな情報発信を行うことで、誘客効果を高めているが、直接的な誘客の効果までは確認できていない。 （HP）飯田まちなか情報 月平均アクセス数 15,000 程度 （SNS）Twitter 丘フェス Facebook 丘フェス、バル、りんご並木まちづくりネットワーク 合計フォロワー数 4,850
計画終了後の状況（事業効果）	SNS の目標フォロワー数（1,500 人）は達成している。
事業の今後について	今後は、インバウンドを視野に入れた情報発信の検討を行う。

4. 今後の対策

「歩行者・自転車通行量」については、平日、土曜日共に目標値を下回るが、土曜日の歩行者・自転車通行量においては、最終数値が 8,568 人/日であり、目標値 8,600 人/日にあと一歩であった。

特に主要事業である「飯田駅周辺及び駅前ストリート整備事業」が、リニア長野県駅設置に併せ、リニア将来ビジョンにおける関連整備と連携して検討するため、計画当初に見込んでいた効果が得られなかった。飯田駅周辺は、将来、リニア駅とつながる交通拠点となりえる位置であり、また駅周辺商業施設の減少もあったことから、新時代を見据えた整備が必要とされている。交通機能の強化・利活用、集客機能の整備・利活用、中心市街地アクセス道路整備、またそれらを含めた総合的な機能設定や整備手法・主体等の検討が必要とされている。

まちの賑わいを創出する「りんご並木周辺商業施設等整備事業」では、まちづくり会社のテナントミックス事業効果により、4 店舗が稼働し、りんご並木周辺の空き店舗数が減少するとともに、「まちなか回遊を創出する事業」のソフト事業の充実により、店舗周辺における歩行者数は増加傾向である。

今後は、中心市街地の関係地域による空き家、空き店舗における対策事業を地域と大学、事業者との産学連携により取り組む。具体的には地域における空き家バンクの設立や、産学連携によるミニマムスペース（ミニテナントミックス）の整備に取り組む。

また、それを支援するソフト事業（まちの賑やかし）の充実を図る取り組みを地域や団体等と推進し、まちなかの魅力を一層に高めていく。

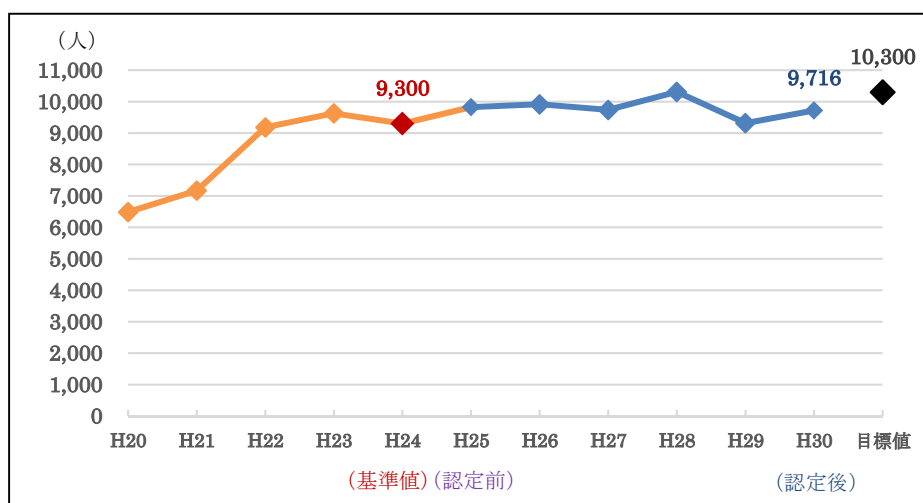
まちなかの回遊性を高めるツールとして取り組んでいる電気小型バス運行事業については、更なる利便性や可能性について検討をしていく。

さらに、都市機能(中央公園・桜並木等)の検討については、まちなか回遊性の向上を図るため、各エリアの既存ストック等の更なる利活用も含め、地域や団体等と検証を行った上で、整備の方向性や検討を推進していくものとする。

計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指数の測定を継続的に実施していく。

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 102～P. 104 参照

1. 調査結果の推移（平日）



年	(単位：人/日)
H24	9,300 (基準年値)
H26	9,916
H27	9,738
H28	10,312
H29	9,316
H30	9,716
H30	10,300 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 平日4地点

(駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目)

○各地点における歩行者通行量（1日当り：12時間・自転車含む） 単位：人

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
駅前中央通り	3,916	3,906	3,950	3,876	3,798	3,578	3,690
りんご並木	1,260	1,704	1,016	1,404	1,794	2,030	2,712
知久町1丁目	860	940	1,188	1,162	856	828	888
銀座3丁目	3,242	3,274	3,762	3,296	3,864	2,880	2,426
合計	9,278	9,824	9,916	9,738	10,312	9,316	9,716

2. 目標の達成状況【 B 】

歩行者・自転車通行量（平日）の増加に向けた各事業においては、一部事業が未達成となった。

現行計画では、基準値 9,300 人/日（平成 24 年度）に対し、目標値を 10,300 人/日（平成 30 年度）と設定している。最新値（平成 30 年度）は 9,716 人/日となり、基準値はク

リアしているが、目標値は達成しなかったことから B とした。

未達成の要因として、通行量調査の基準日が H29、H30 とともに雨であったことから、その影響に左右されたものとする。平成 28 年度の通行調査においては、天候にも恵まれ、通行量も目標値をクリアしている。特に通行量の減少が著しい銀座 3 丁目においては、雨の影響により街区エリアにおける飲食店へ出向く客足が少なかったことが要因として考える。

事業効果として「りんご並木周辺商業施設等整備事業」や「りんご並木整備事業」、「りんご並木賑わいづくり事業」により、りんご並木周辺の通行量の増加に影響を与えた。

一方で、駅前中央通りにおいては、「駅周辺及び駅前ストリートの整備事業」の未実施や、平成 30 年 9 月には飯田駅前の大型商業施設が閉店した影響により、通行量は減少傾向にある。

中心市街地では多彩なイベントを実施しており、その都度多くの来訪者を集めているが、賑わいが日常化するまでには至っていない。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 駅周辺及び駅前ストリートの整備事業（事業主体名：飯田市、飯田観光協会、JR 東海）

事業実施期間	未実施【未】 【認定基本計画：平成 20 年度～平成 30 年度】
事業概要	交通の結節点である飯田駅のまちなか誘客拠点としての機能、駅周辺及び駅前ストリートの観光情報案内所、店舗等誘客施設、駐車場、駐輪場、トイレ等を総合的に整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	未実施 【認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（平成 29 年度～平成 30 年度）】
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）歩行者通行量：153 人増（対 平成 24 年比） ※駅前中央通り （達成状況）目標未達成
達成した（出来なかった）理由	リニア長野県駅設置に併せ、リニア将来ビジョンにおける関連整備と連携して検討するため事業着手には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	-
事業の今後について	バスや JR の利用拡大に努めるとともに、リニア中央新幹線長野県駅設置を見据え、リニア到来の大交流時代に対応した総合的な交通戦略に基づく事業展開を行う。

②. りんご並木周辺商業施設等整備事業（事業主体名：㈱飯田まちづくりカンパニー）

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 20 年度～平成 30 年度】
事業概要	りんご並木ストリートマネジメント計画に基づき、りんご並木周辺の空き店舗等を中心市街地に投資意欲を持つ民間事業者とマッチングさせることで有効活用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再興戦略事業費補助金 （経済産業省）（平成 27 年度）

	地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業 （経済産業省）（平成 28 年度～平成 30 年度）
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）歩行者通行量：832 人増（対 平成 24 年比） （最新値）歩行者通行量：1,184 人増（対 平成 24 年比） ※りんご並木 知久町 1 丁目 （達成状況）目標達成
達成した（出来なかった）理由	まちづくり会社のテナントミックス事業効果により、4店舗が稼働し、りんご並木周辺の歩行者数の増加に繋がった。
計画終了後の状況（事業効果）	りんご並木周辺の空き店舗、未利用地の解消ができた。また、各テナントの開店により、りんご並木周辺の歩行者数は増加傾向にある。
事業の今後について	今後は、当市の街並みの特有である裏界線沿いの空き店舗等の解消に向けた施設整備に取り組む。

③. まちなか健康福祉拠点活用事業（事業主体名：㈱なみき）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 26 年度～平成 30 年度】
事業概要	健康の駅構想として、高齢者、健康福祉、子育て支援のため整備した拠点の活用
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）施設利用者：20 人増（対 平成 24 年比） （最新値）施設利用者：20 人増（対 平成 24 年比） ※知久町 1 丁目 銀座 3 丁目 （目標）目標達成
達成した（出来なかった）理由	民間事業者によるサービス提供の事業努力により、施設利用者は増加している。
計画終了後の状況（事業効果）	施設利用者は増加傾向にあるが、施設周辺の歩行者数は減少していることから、恒常的なまちの賑わいまでには至っていない。
事業の今後について	施設利用者が街中を回遊する事業の取組や、高齢者の外出に向けた事業の創出について検討を行う。

4. 今後の対策

「歩行者・自転車通行量」については、平日、土曜日共に目標値を下回る。平日における歩行者・自転車等の最終数値は 9,716 人/日であり、目標値 10,300 人/日には届かなかった。

特に主要事業である「飯田駅周辺及び駅前ストリート整備事業」が、リニア長野県駅設置に併せ、リニア将来ビジョンにおける関連整備と連携して検討するため、計画当初に見込んでいた効果が得られなかった。飯田駅周辺は、将来、リニア駅とつながる交通拠点となりえる位置であり、また駅周辺商業施設の減少もあったことから、新時代を見据えた整備が必要とされている。交通機能の強化・利活用、集客機能の整備・利活用、中心市街地

アクセス道路整備、またそれらを含めた、総合的な機能設定や整備手法・主体等の検討が必要とされている。

まちの賑わいを創出する「りんご並木周辺商業施設等整備事業」では、まちづくり会社のテナントミックス事業効果により、4店舗が稼働し、りんご並木周辺の空き店舗数は減少した。

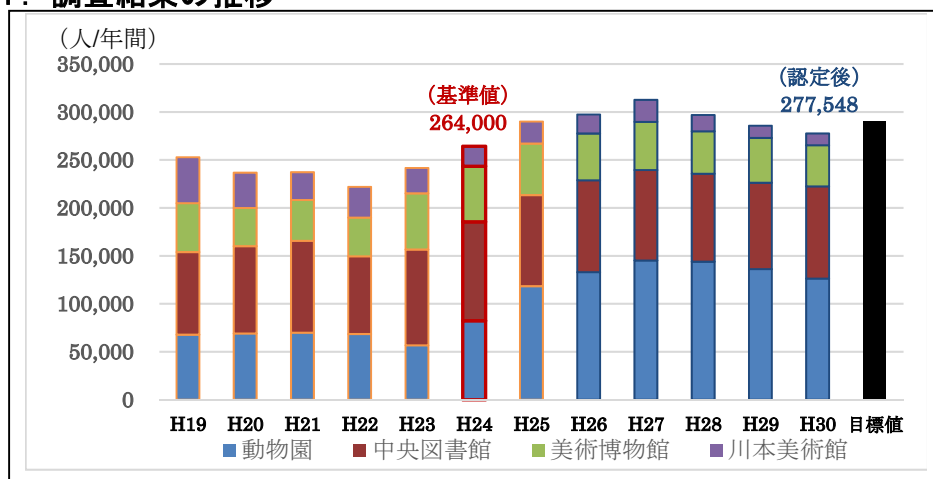
今後は、中心市街地の関係地域による空き家、空き店舗における対策事業を地域と大学、事業者との産学連携により取り組む。具体的には地域における空き家バンクの設立や、産学連携によるミニマムスペース(ミニテナントミックス)の整備に取り組む。

また、それを支援するソフト事業(まちの賑わい)の充実を図る取り組みを地域や団体等と推進し、まちなかの魅力を一層に高める。

民間事業者が展開する「まちなか健康福祉拠点活用事業」では、施設利用者は増加傾向であるが、まちの賑わいの指標としている平日の「歩行者・自転車通行量」には寄与できなかった。今後、地域は更なる高齢化が高まることから、まちなかの回遊性を高める電気小型バスの利活用による研究や、外出に向けた事業の創出について検討をしていく。

「文化・交流施設の利用者数（年間）」※目標設定の考え方基本計画 P106～P108 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人/年)
H24	264,000 (基準年値)
H26	297,341
H27	312,507
H28	296,832
H29	285,624
H30	277,548
H30	290,000 (目標値)

	平成24年 (基準値)	平成25年 (認定前)	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年 (認定後)
川本人形館	20,863	23,001	19,810	22,875	16,981	12,713	12,256
美術博物館	57,930	53,702	48,764	50,265	44,277	46,705	42,832
中央図書館	103,133	94,961	95,798	94,238	91,668	90,001	96,158
動物園	82,353	118,970	132,969	145,192	143,006	136,205	126,302
合計	264,279	290,034	297,341	312,570	296,832	285,624	277,548

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：4月(年度末集計)

※調査主体：飯田市

※調査対象：川本喜八郎人形美術館、飯田市美術博物館、飯田市中央図書館、飯田市立動物園

2. 目標の達成状況【 B 】

現行計画では、基準値 264,000 人/年（平成 24 年度）に対し、目標値を 290,000 人/年（平成 30 年度）と設定している。

計画初年度より基準値は超え、平成 26 年度から平成 28 年度は目標値を上回ることができたが、平成 29 年度以降は、目標値まで届かなかったことから達成状況を B とした。

文化・交流施設の全体における利用者数を牽引しているのが「扇町公園(動物園)活用事業」であり、目標設定における施設利用者数の約半分を占めている。園は屋外施設であることから、近年における温暖化等により利用者数が伸び悩んだことが要因の一つと考える。また、川本人形館においては、展示替えや人形講座などを定期に開催しているが、施設開設から 10 年を経過することもあり、利用者数の増加までには繋がっていない。

その他として、主要事業であった「美術博物館改修事業」の遅れによる事業効果が発現されなかったことと、それに付帯する「地域ミュージアムを活かしたまちづくり事業」において、「美術博物館改修事業」に相乗した事業効果が直接に結びつかなかったことが、目標達成において大きな影響を及ぼした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 文化的・商業的イベント実施事業（事業主体名：飯田市ほか）

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 21 年度～平成 30 年度】
事業概要	川本美術館、飯田市立図書館、飯田美術博物館とまちづくり委員会や商店街との連携により、地域の資源、歴史、文化について学ぶ機会を増やす講座等を実施
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （総務省）（平成 26 年度～平成 30 年度） 文化芸術振興費補助金 （文化庁）（平成 26 年度～平成 30 年度）
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）年間利用者数：200 人増（対 平成 24 年比） （最新値）年間利用者数：227 人増（対 平成 24 年比） （達成状況）目標達成
達成した（出来なかった）理由	定期の講座企画により、継続した事業展開ができたため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業は各館の定例行事として来館者に楽しまれている。
事業の今後について	各イベント内容と密接した講座等の更なる検討や、内容の充実を、多様な主体で連携し取り組む。

②. 美術博物館改修事業（事業主体名：飯田市）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 29 年度～平成 30 年度】
事業概要	美術博物館の常設展示室の全面改修と展示物更新について検討・実施する。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」

目標値・最新値及び達成状況	(目標値) 年間利用者数：8,000 人増 (対 平成 24 年比) (達成状況) 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	常設展示室の全面改修事業の検討遅れにより、工事完了が今期計画内に間に合わなかった。それにより展示物更新にまで至っていない。
計画終了後の状況(事業効果)	計画最終年度の事業着手となったため、効果までは見込めていない。
事業の今後について	リニューアル後の展示物の更新について検討を行い、魅力ある施設づくりを展開していく。

③. 地域ミュージアムを活かしたまちづくり事業(事業主体名：飯田市)

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 26 年度～平成 30 年度】
事業概要	美術博物館プラネタリウムを活用し、地域資源を題材とした番組制作を定期的に行い、知的交流拠点となるまちなかを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) (国土交通省)(平成 26 年度～平成 30 年度)
目標値・最新値及び達成状況	(目標値) 年間利用者数：5,320 人増(対 平成 24 年比) (最新値) 年間利用者数：4,658 人増(対 平成 24 年比) (達成状況) 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	美術博物館改修事業のリニューアルによる入館者の増加を見込んでいたが改修事業の遅れから、来場者の増加には繋がらなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	飯田に所縁のある日本画家菱田春草物語など、地域資源を題材とした様々な番組を制作することができた。
事業の今後について	今後は、リニューアル効果を最大限に引き出す事業の検討を行う。また、地域や各施設(動物園、中央図書館、川本人形館、飯田市公民館)と連携したソフト事業の検討を進める。

③. 扇町公園(動物園)活用事業(事業主体名：環境文化教育機構(株))

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 26 年度～平成 30 年度】
事業概要	動物園、四季の広場等を活用したソフト事業
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	(目標値) 年間利用者数：13,000 人増(対 平成 24 年比) (最新値) 年間利用者数：43,949 人増(対 平成 24 年比) (達成状況) 目標達成
達成した(出来なかった)理由	前期計画による施設改修事業が完了し、地域に生育する動物に関する学習会やワークショップ等の魅力あるソフト事業の展開により来園者が増加した。
計画終了後の状況	動物ふれあい体験等の様々な事業を展開していることで、親

(事業効果)	子連れを中心市街地へ牽引する核施設となっている。
事業の今後について	今後も様々なソフト事業を展開し継続実施していく。

4. 今後の対策

「文化・交流施設の利用者数」については、最終値が277,548人/年と目標値には届かなかったものの、それ以外の年度においては目標値を達成することができた。

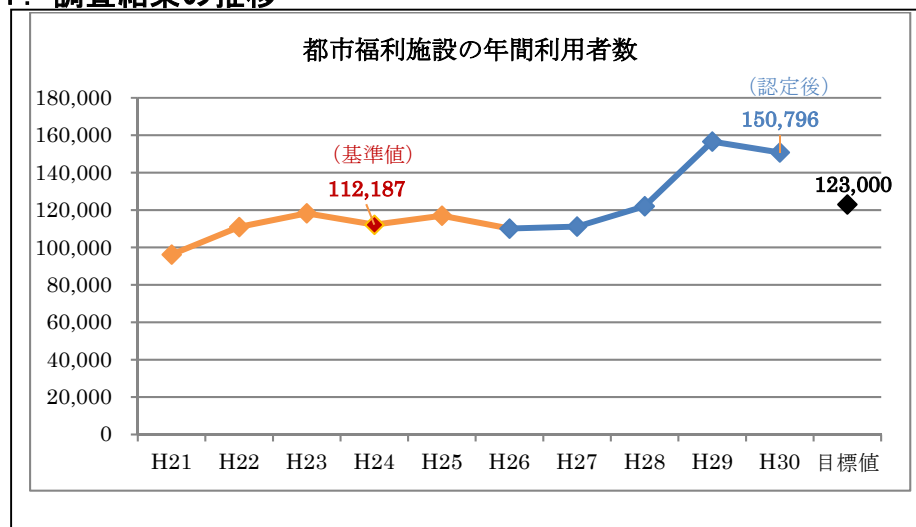
特に、「美術博物館改修事業」は事業の開始が大幅に遅れ、施設入館者数に影響を及ぼした。今後は、改修後の施設を活かしたソフト事業の充実が必要とされる。

また、各施設によるイベントの開催やソフト事業の充実も大切であるが、今後においては、中心市街地の各施設が連携するまちなか回遊事業を推進していく。

計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指数の測定を継続的に実施していく。

「都市福利施設の利用者数（年間）」※目標設定の考え方基本計画 P109～P111 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人/年)
H24	112,000 (基準年値)
H26	110,107
H27	111,181
H28	122,029
H29	156,629
H30	150,796
H30	123,000 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：4月（年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市公民館、りんご庁舎、カーブス、(株)なみき

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
飯田市公民館	52,731	62,301	55,875	60,220	70,886	85,202	73,687
りんご庁舎	25,600	20,928	19,168	18,343	13,051	13,171	17,005
カーブス	29,055	29,581	30,484	27,210	33,075	53,451	55,261
(株)なみき	4,801	4,219	4,580	5,408	5,017	4,805	4,843
合計	112,187	117,029	110,107	111,181	122,029	156,629	150,796

2. 目標の達成状況【 A 】

基準値 112,000 人/年（平成 24 年度）に対し、目標値を 123,000 人/年（平成 30 年度）と設定している。計画最終年度となる平成 30 年度（平成 31 年 4 月）は 150,796 人/年と平成 29 年度より目標を達成しているため、達成状況を A とした。

施設別に利用数を見ると、飯田市公民館と堀端ビル（カーブス）が大きく増加している。一方、りんご庁舎は減少傾向となっている。これは平成 26 年度にりんご庁舎にある福祉事務所機能が本庁舎へ移転したことが要因であり、その後、りんご庁舎再整備事業により整備された子育て・子供サロン拠点施設「ゆいキッズ」は、特定の利用者に限られた施設となっており、福祉事務所機能移転後の利用者数の増加までには繋がらなかった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. まちなか健康福祉拠点活用事業（事業主体名：㈱なみき）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 26 年度～平成 30 年度】
事業概要	健康の駅構想として、高齢者、健康福祉、子育て支援のため整備した拠点の活用
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）年間利用者数：5,400 人増（対 平成 24 年比） （最新値）年間利用者数：26,248 人増（対 平成 24 年比） （達成状況）目標達成
達成した（出来なかった）理由	銀座堀端ビル等を拠点とした、民間事業者による健康増進サービスの経営努力により施設利用者数の増加に繋がった。
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地の利用者はもとより、郊外からの利用者も多く、施設が地域における医療・介護予防の拠点となっている。
事業の今後について	施設利用者が街中を回遊する事業の取組や、高齢者の外出に向けた事業の創出について検討を行う。

②. 環境配慮型まちづくり事業（事業主体名：飯田市、おひさま進歩エネルギー㈱）

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 20 年度～平成 30 年度】
事業概要	りんご並木のエコハウスなどを活用し、環境に配慮した豊かな住まい方を提案したり、低炭素社会実現のためのまちづくりを学んだりする場を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （総務省）（平成 30 年度）
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）年間利用者数：1,000 人増 （最新値）年間利用者数：5,234 人増 （達成状況）目標達成
達成した（出来なかった）理由	施設は指定管理者制度により、地域のまちづくり委員会により効率の良い管理・運営が行われているため。
計画終了後の状況	施設は地域に開かれた環境学習の場として、定着されてきて

(事業効果)	いる。
事業の今後について	今後は、飯田市版 ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)モデルの推進に向けて、地域を始めとした環境学習の場づくりの検討を行う。
③. まちなか住宅開発事業(事業主体名:社会医療法人栗山会、おひさま進歩エネルギー)	
事業実施期間	平成 20 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	暮らしやすい街を創造するため、これまでのまちなかの居住の成果を継承しつつ、環境に配慮し、且つ人の暮らしに合った効率のよい集合住宅等の開発を研究・実施する。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	(目標値)年間利用者数:1,000人増(対平成24年比) (最新値)年間利用者数:7,100人増(対平成24年比) 診療所、通所リハビリテーション、フィットネスクラブ (達成状況)目標達成
達成した(出来なかった)理由	環境に配慮した都市福利施設を併設する低層集合住宅の開発が民間の医療法人により整備され、施設利用者数が増加したため。
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地でも特に高齢化率の高い地域における医療・介護の拠点施設となっており、市全域に渡るウェルネス事業のモデル地域として注目されている。
事業の今後について	施設利用者が街中を回遊する事業の取組や、高齢者の外出に向けた事業の創出について検討を行う。
④. 旧飯田測候所活用事業(事業主体名:飯田市)	
事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】 【認定基本計画:平成 21 年度～平成 30 年度】
事業概要	歴史的建築物としての外観を復元しつつ、旧飯田測候所の歴史、飯田市の環境施策の情報発信及び集会室等の設置によるコミュニティ活動の拠点化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (総務省)(平成 30 年度)
目標値・最新値及び達成状況	(目標値)年間利用者数:1,500人増 (最新値)年間利用者数:1,312人増 (達成状況)目標未達成
達成した(出来なかった)理由	環境政策の学習の場として、様々な講座等を実施したが、利用者数は目標値には届かなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	施設は環境政策の拠点として機能するとともに、地域のコミュニティの場として利用されている。
事業の今後について	事業は引き続き継続するが、歴史的建造物を活かした集客施設として、地域のまちづくりに活用できる事業の検討を進めて行く。

⑤. りんご庁舎再整備事業（事業主体名：飯田市）

事業実施期間	平成 26 年度【済】
事業概要	福祉事務所が本庁舎へ機能移転後における庁舎の利活用（子育て・子供サロン等の拠点整備、お年寄りサロン等の機能強化）の検討と整備を進める。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）年間利用者数：1,900 人増（対 平成 24 年比） （最新値）年間利用者数：8,595 人減（対 平成 24 年比） （達成状況）目標未達成
達成した（出来なかった）理由	子育て、子どもサロンは特定の利用者に限られた施設となっており、福祉事務所機能移転後の利用者数の増加には直接には繋がらなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> 子育て。子供サロン等の拠点整備事業 子育て、子どもサロン「飯田市こども家庭応援センターゆいキッズ」として拠点整備が完了し、市民と行政が協働して子育て家庭を社会全体で応援する拠点施設となっている。 お年寄りサロン等の機能強化事業 庁舎をお年寄りサロンとして機能強化する検討までには至らなかった。
事業の今後について	りんご庁舎の市民サロンは学生等の学習スペースとしての利用者が多いことから、今後は市民サロンの更なる有効的な活用について検討する。

⑥. コミュニティ形成・公共施設機能強化事業（事業主体名：飯田市）

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】 【認定基本計画：平成 20 年度～平成 30 年度】
事業概要	福祉、文化、コミュニティの再構築に向けた取組み等を行える空間として、公共施設の機能的、施設的な強化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置活用なし」
目標値・最新値及び達成状況	（目標値）年間利用者数：240 人増（対 平成 24 年比） （最新値）年間利用者数：20,956 人増（対 平成 24 年比） （達成状況）目標達成
達成した（出来なかった）理由	当市の公民館活動の推進により、様々な団体等による学習・コミュニティ活動の充実が図られた。
計画終了後の状況（事業効果）	施設は、市民のコミュニティ講座等の場として広く活用されている。
事業の今後について	今後も、公民館活動や市民活動における学びの場を中心市街地で支援できるよう継続し、実施していく。

4. 今後の対策

「都市福利施設の利用者数」については、平成 30 年度の実績値が 150,796 人/年と、

目標値である 123,000 人/年を達成することができた。今後も、引き続き各事業の実施を確実に展開し、利用者数の増加に努める。

豊かな暮らしの実現にあたり、中心市街地では人口・世帯数の減少とともに少子高齢化が止まらず、活性化のために必要な事業として、多様な世代のまちなか居住の推進が望まれる。現在、次期計画の素案づくりを行っている市民会議「飯田丘のまち会議」の場においても、リニア新幹線と連動する来住者を呼び込める多機能型住宅(自宅+オフィス・工房等)や、空き家・空き地活用による多世代向け住宅(シェアハウス+SOHO・シェアオフィス等)、集合住宅の持続的供給などが求められている。

また、今期実現したサービス付き高齢者住宅がその効果を上げていることから、それらをセットで子育て支援・高齢者生活支援機能との連携、合築、住まいづくりの手法・主体の検討、確立についても支援できる対策が必要とされている。

再開発の中に公的な手法で住宅を組み込むのは、今後一般化しにくいことから、既存建物のコンバージョンやシェアハウス、まちなみ調和型戸建住宅群など、市民参加や民間事業者の連携・推進による、まちなか居住の多様な展開の可能性を検討していく。

計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指数の測定を継続的に実施していく。